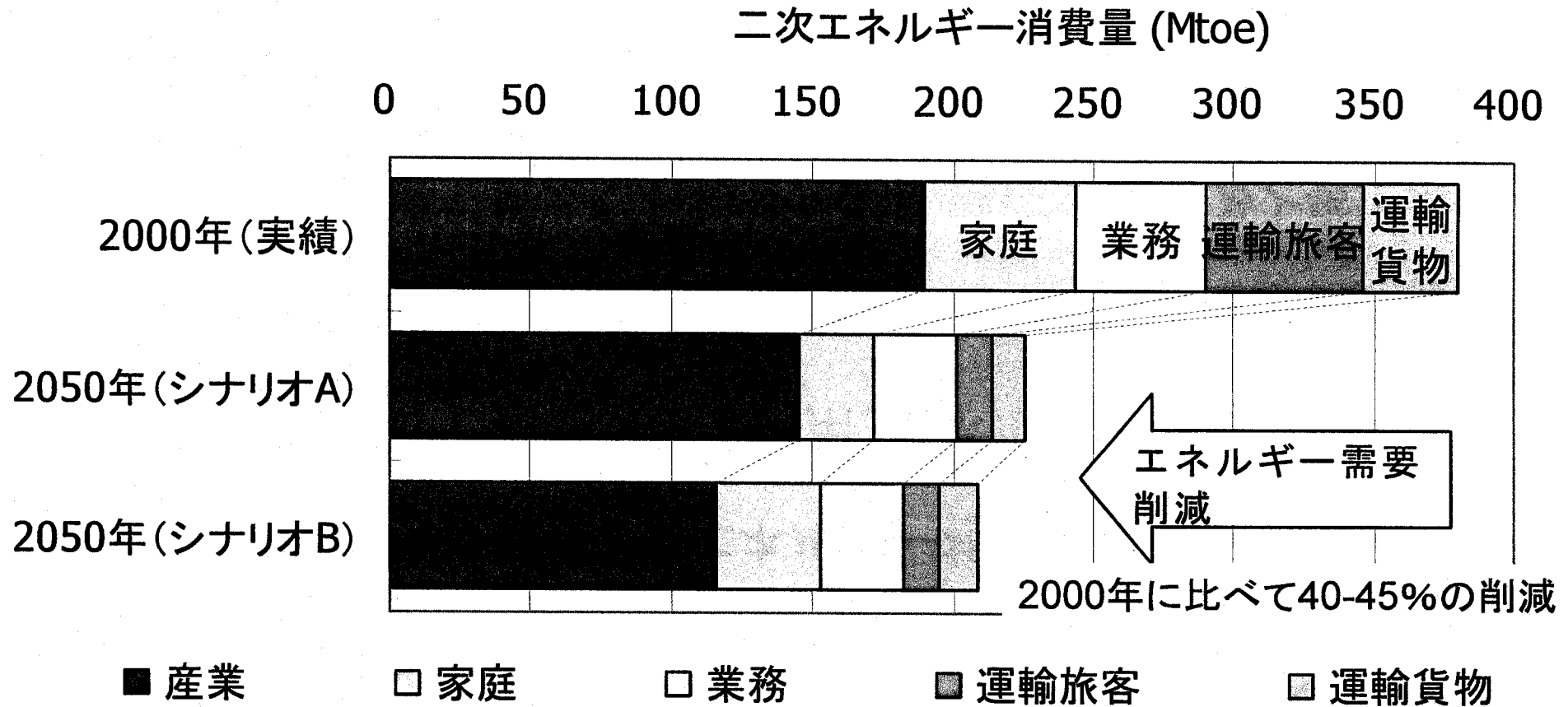


図4 70%削減を可能にする需要削減・供給側エネルギー構成例
各部門の需要対策の効果



産業部門: 構造転換と省エネルギー技術導入等で20~40%。

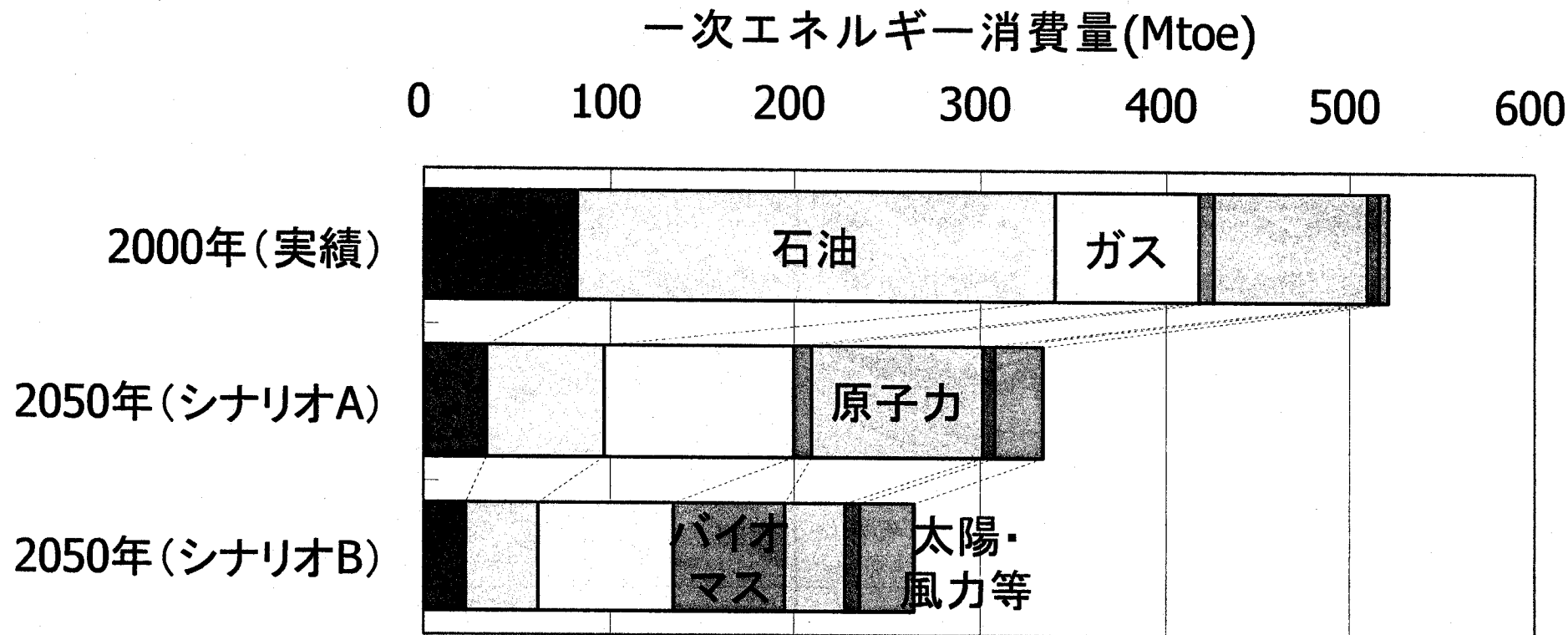
運輸旅客部門: 適切な国土利用、エネルギー効率、炭素強度改善等で80%。

運輸貨物部門: 輸送システムの効率化、輸送機器のエネルギー効率改善等で60~70%。

家庭部門: 利便性の高い居住空間と省エネルギー性能が両立した住宅への誘導で50%。

業務部門: 快適なサービス空間/働きやすいオフィスと省エネ機器の効率改善で40%。

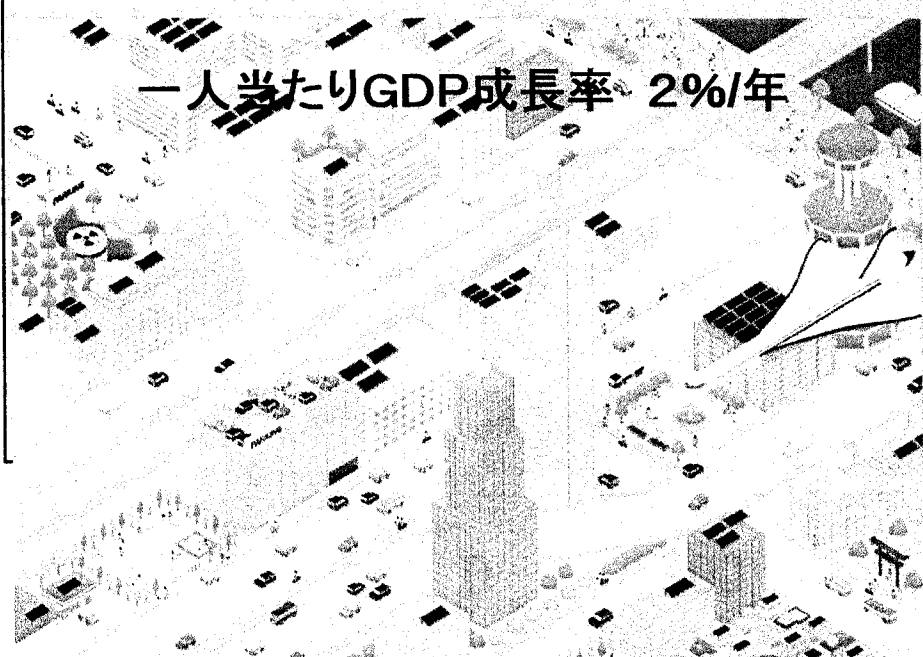

図4 70%削減を可能にする需要削減・供給側エネルギー構成例



■ 石炭 □ 石油 □ ガス ■ バイオマス □ 原子力 ■ 水力 ■ 太陽・風力等

この例では、シナリオA: 炭素隔離貯留(CCS)や水素など大規模なエネルギー技術、
シナリオB: 太陽光や風力、バイオマスなど比較的規模の小さい
分散的なエネルギー技術
が受け入れられやすいと想定

2050年脱温暖化社会の描写例

<p>ビジョンA: 活力、ドラえものの社会</p>	<p>ビジョンB: ゆとり、サツキとメイの家</p>
<p>都市型/個人を大事に</p>	<p>分散型/コミュニティ重視</p>
<p>集中生産・リサイクル 技術によるブレイクスルー</p>	<p>地産地消、必要な分の生産・消費 もったいない</p>
<p>より便利で快適な社会を目指す</p>	<p>社会・文化的価値を尊ぶ</p>
 <p>一人当たりGDP成長率 2%/年</p>	 <p>一人当たりGDP成長率 1%/年</p> <p>絵: 今川朱美</p>

人々の考え方、人口、国土・都市、生活・家庭、経済・産業
に関する叙事的なシナリオを開発している

表1 国土・都市のシナリオ

キーワード	シナリオA	シナリオB
国内人口移動 人口減少社会の 下あらゆる地域 で人口減少	都市居住選好志向や利便性・効率性の追求から都心部への人口・資本の集中が進展	ゆとりある生活を求めて、都心から地方・農山村への人口流出が進み、人口や資本の分散化が進展
都心部		
中心	土地の高度利用(高層化、地下化)が進む。職住近接が可能になり、郊外から利便性が高い中心部に移り住む人々の比率が増加。	自らのライフスタイルに合った地域に移り住む人が増加し中心部の人口減少。首都など主要都市においては適正な規模と密度が維持されており、過度なインフラ投資は行わない。
郊外	都心部へ人口が流出するが、計画的で効率の良い都市計画により、アミューズメント施設や自然共生地を適切に配置。	地方への人口・資本流出が大幅に進む。この結果、都市部郊外というよりは独立性高い都市としての再生が図られる。

表1 国土・都市のシナリオ

キーワード	シナリオA	シナリオB
地方都市		
中心	<p>人口が大幅に減少するため、中核都市としての機能を果たせない都市が増加するが、土地や資源を利用したビジネス(大規模農業、発電プラント等)の拠点として再生される都市も現れる。</p>	<p>地方においても十分な医療サービスや教育を受けることが可能になり、人口の減少がある程度抑制される。地域の独自性や文化が前面に出され、活気ある地方都市が数多く現れる。地域社会の意思決定の過程には、NGOや市民が積極的に参加し、理想の地域を自ら作る意欲に満ち溢れている。</p>
農地・山間	<p>農地、山間部においては過疎化が進展し、人口が大幅に減少する。地域の特性に応じた、土地や資源の効率的な利用に向けた取り組みが進められる。農業・林業・漁業などは民間会社などによって大規模経営され、機械化などによって大幅に省力化される中、ヒト・モノ・カネといった資源の効率的な利用が進む。一方で、国立公園に指定される地域も増加する。</p>	<p>農林水産業に対する魅力性が高まり、農村や山村、漁村への人口回帰が進む。低い地価を利用した個人・地域経営のもと、工夫を凝らした「おもしろい」一次産業を営む人も現れる。農業を職業として営む人のみならず、自然が豊かな地域に自宅とオフィスを構え、SOHOによって収入を得ながら、自ら家庭菜園を営み、おいしく、安全な食と健康的な生活を求める家族も現れる。</p>